

市民オンブズ岡崎

ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~onbokaza/>
NO.75

岡崎市伝馬通 2-33 千賀ビル 3F
「市民オンブズ岡崎」事務所
TEL&FAX(0564)25-9667

Email m039asihara@yahoo.co.jp

郵便振替 00870-0-91440 「市民オンブズ岡崎」

発行 2011.5.30

一般廃棄物処理施設（ガス化溶融炉の）技術提案書情報公開

控訴審判決は7月8日午後3時

どんな判決になるかわかりませんが、その日の夜事務所で報告します。

すでにこの4月から供用開始された廃棄物処理施設。その建設に当たったの総合評価による業者選定過程で難癖をつけて一社を失格にして、当初からの予定通りの業者と一社随意契約をしました。その失格理由を探るために情報公開請求した文書を、市が企業利益を保護するという理由で隠し続けていることを争っているものです。どんな判断を下すのでしょうか？

見てきました！ 廃棄物処理施設

5月22日、新廃棄物処理施設の一般公開がありましたので見てきました。雨の中、たくさんの市民が来ていましたので、ごみに対する関心がずいぶん高いのだなあと感心しました。あるいは、はてな。この4月から硬質プラスチックも一般可燃ごみに分類されていますが、それは溶融炉の燃焼効率を高めるためではないでしょうか。今回の溶融炉は安定した高温を維持することによってごみから出る灰を極力減らすことが目的ですから、燃えにくいゴミばかりが投入されるのは困るのです。

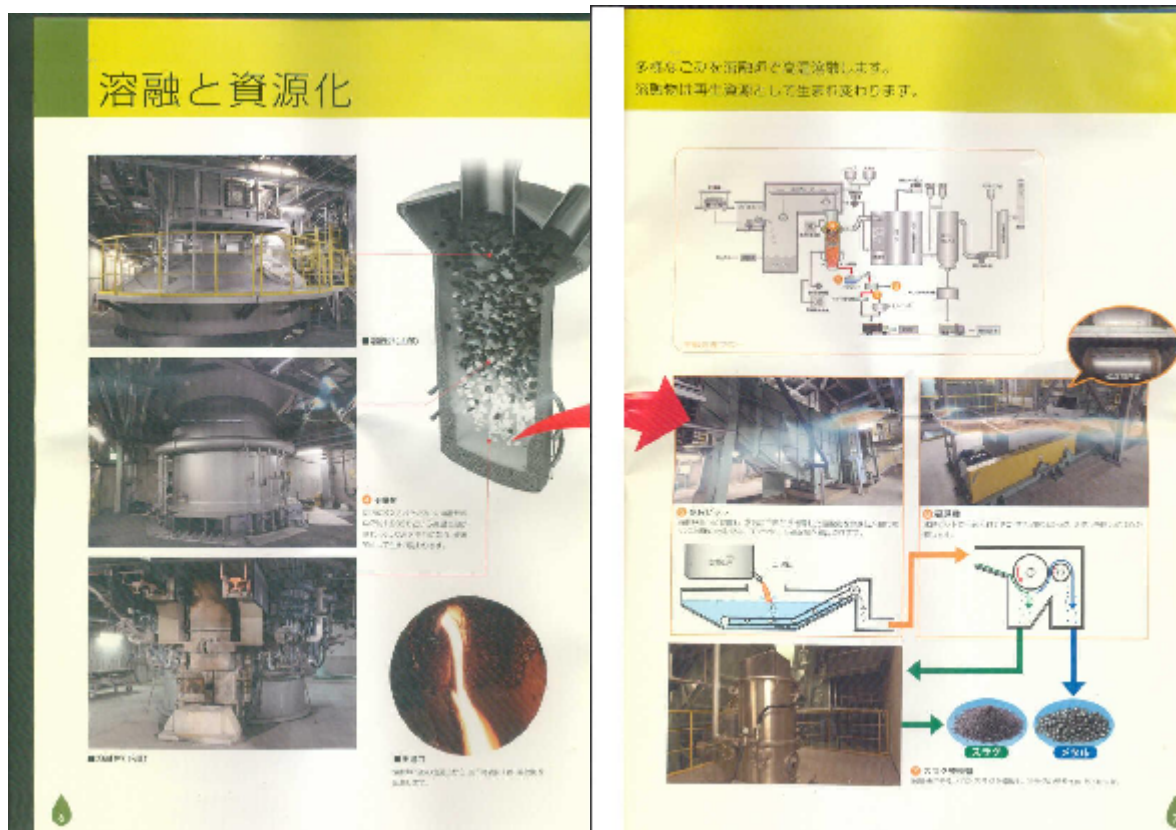
さて、最初に気になったのは溶融炉の下部にあるスラグの取り出し口です。そこで作業員が1時間に1回長い棒状のもので、真っ赤に溶けたスラグ（約1500度ほど）をかき出している姿でした。溶融炉は2基あるので、ほぼ30分に一度はかき出しにくるわけです。そうすると炉の下にたまっているスラグが流れ出して、手前にあるプールにたまるのだそうです。そして200度ぐらいに冷やしたものをコンベアで運ぶらしい。

係員に聞くと施設の管理委託を受けている会社の社員が、昼夜24時間、12時間2人

体制の交代勤務で維持管理しているそうです。

次に説明を聞いていて気になったのは、燃料であるコークスの入手先です。計画段階で聞いていたのは、オーストラリア産のコークスの安定供給ができるということで、新日鉄を評価していたはずですが、説明では、中国産とロシア産であるけれど、中国の国内需要が高まっており、中国産が入手しにくくなっているということでした。オーストラリアの炭鉱が洪水によって採掘できなくなってしまう、中国産とロシア産に変わったということです。コークスの価格の上昇が起きているので気がかかります。コークスがなければ成り立たない施設なので、原材料の価格上昇が維持費の押上げを招き、市の財政を圧迫する事態が訪れないとは言い切れません。巨大施設がお荷物にならないことを祈るばかりです。

つぎに、ゴミピットへの投入口。プラットホームから見て右から灰、1から6、そして市民投入口がありました。最初の灰は八帖処理場で出た灰をここに持ち込んで、再度燃やすためのものだそうです。二度手間かけるのなら、何のために八帖処理場を残すのかわかりません。



市民オンブズ岡崎 例会

6月3日(金)午後7時から

オンブズ事務所で行います